

「いろいろな海藻があった」熱川小3年生が北川漁港で採集楽しむ—東伊豆

◎ 2026年6月19日 3時00分

東伊豆町



波に打ち上げられた海藻を集める熱川小3年生=東伊豆町の北川漁港

掲載写真を購入

東伊豆町立熱川小の3年生19人が17日、北川漁港で海藻採集とごみ拾い活動に取り組んだ。「町の魅力を発見」をテーマにした総合的な学習の一環。採集した海藻を使って25日には「海藻おしば」作りを楽しむ。

海藻おしば協会事務局長でもある北川ダイビングサービスの高山優美さんが「子どもたちに地元の自然に親しんでほしい」と願い、海藻おしば作りを同校に提案。前年度に続いて海藻採集と合わせて学習活動に取り入れられた。

高山さんが同協会静岡支部の小張紀子さんとともに講師を務め、採集する海藻やマイクロプラスチックの問題について説明した。児童は堤防から海の中の海藻を見学した後、波に打ち上げられたトサカノリやマクサ、サナダグサ、イカノアシ、フドラクなどを集めて分類した。

分類にも積極的に取り組んだ鈴木里花さんは「いろいろな海

藻があって楽しかった」と話した。小張さんは「伊豆半島沿岸には約450種類の海藻があり、色も形もきれい。海藻にとって奇跡の海だと知ってほしい」と語った。

採集した海藻は、稲取小児童の海藻おしば作りにも活用するという。

[トップ](#) > [カテゴリ](#) > [ニュース](#) > [教育・学校・文化](#)

海藻で絵、文字表現 稲取小生がおしば作り—東伊豆

◎ 2026年6月27日 3時00分

東伊豆町



海藻おしば作りを楽しむ5年生=東伊豆町の稲取小

掲載写真を購入

東伊豆町の稲取小5年生22人が25日、環境をテーマにした総合的な学習の一環で「海藻おしば」作りを楽しんだ。海藻おしば協会事務局長の高山優美さんら協会メンバーと地元ボランティアの手ほどきを受け、伊豆半島の海辺で採集した海藻ではがきの上に絵や文字を表現した。

高山さんは画像を使って伊豆半島の海には海藻が豊富で「海の森」が広がっていること、海の森が二酸化炭素(CO2)を吸収し酸素を放出していることなどを説明。「海藻おしばを作り、地球温暖化防止のために何ができるかを考えるきっかけにしてほしい」と呼びかけて、実習を交えて作り方を伝授した。

熱川小3年生が北川海岸で採集したトサカノリをはじめユカリ、マクサ、フシツナギなど9種類の海藻が用意されていて、児童たちは自由に選んでではがきの上に広げた。ストローで円形

にくりぬいた海藻を並べたり、カメや魚を描いたりする児童もいた。

ヒラアオノリで「うみをきれいにして」と書いた寺田唯唯さんは「海にごみがいっぱいあったから、きれいになりたいと思って書いた」、平山葵さんは「いつも食べている海藻が絵になるのが面白い。海藻を大切にしないと生きていけなくなるから、海藻に迷惑をかけないようにしたい」と話した。